

考を以て之を定め得るものではありませぬが、相當なる人々の間に簡單明瞭に了解すべき所の思想律を選んで、思想の基準を示したら宜からうと思ふ。恰度米を量るには枴のあるが如く、枴なしにして置いて、賣る方と買ふ方との公平を保たさうとしても容易な事でない、併し枴に據れば直ちに決定されるが如くに、度量衡に依つて物の長短輕重多少をはかるが如くに、思想を測定する基準律を與へなければならぬと思ふ。今日の悪い思想はこの基準を一つも認めないで、唯だ勝手我儘な議論を恣にしやうとする、健全なる國民は思想撰擇の基準を握つて、さうしてその認れるものをドシ／＼擊退して行つたならば宜からうと考へるのであります。

それではどういふ事が思想撰擇の基準となるかといふに、私は試に十ほどのものを茲に數へて見たのであります。これは十分に熟慮されて居りませぬから、これを取捨訂正するに於て何等異議はありませぬが、併し斯様なものがあつたならば、餘程思想を捌いて行く上に都合が宜からうと考へるのであります。さうして私はそれと教育勅

語の解釋應用とを併せて考へて見たいのであります。即ち私が唯今申す所の思想撰擇律が正しいものとして、若しもそれに觸れた解釋應用をして居つたならば、やはりそれは一つの失敗を來しはしないか、思想撰擇律の標準と一致したる態度に依つて教育勅語を解釋し應用して行つたならば、非常に効果が多くなりはしないかと考へたのであります。是は唯今申す通り熟慮されて居らぬ事でありませぬが、斯様な事に依つて思想を取裁いて行くことが必要であらうといふ、一つの型に就いて申すのでありますから、その點は豫めと斷り申して置きます。

一、綜合觀察律

第一には綜合觀察律といふが必要と思ふ、今日の思想界の弊は一局部を見て立論する者が多いことである、人類の進み行く文明をば局部より判斷するは頗る危険なことであらう、今一例を申さば所謂物質的の方面に偏傾して、精神生活を忘れて立論する